

令和 4年 3月 4日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：医療法人社団 水澄み会 グループホームもやいの家うのはな
施設種類：認知症対応型共同生活介護

新型コロナウイルス感染拡大防止のため会議の開催を中止とし、参加予定の方々へは文書により事業所活動の報告を行い、意見をいただく事とした。

文書配布：

利用者	人	知見を有する者等	人
利用者家族	9人	地域包括支援センター職員	人
地域住民の代表	2人	益田市職員	1人
その他（代表者、管理者、施設職員等）			人

【報告内容】

1. 現況、活動状況報告

利用者様状況

- ・女性 9名の方ご利用中
- ・介護度 ①・・・2名、②・・・4名、③・・・1名、④・・・1名、⑤・・・1名
- ・平均介護度 2.4
- ・利用者様年齢 70歳代・・・1名
80歳代・・・4名
90歳代・・・4名
- ・平均年齢 89.8歳
- ・新規入居者、退居者については無し。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応

1月に入りホームにおいて、職員の家族に新型コロナウイルス感染症の陽性・濃厚接触の報告があった。施設内でのコロナ感染症対策を強化し、他者との接触をなるべく減らすため、4日の間居室で食事を取って頂いた。利用者様及び全職員に感染することなく終息した。

生活環境が変化し、利用者様の中には少し不穏傾向になる方も見られた。非常時の対応・ケアについて、マニュアル等の検討・修正を行って行く。

活動状況

- ・季節の手作業

七草粥、鏡開き、壁飾り製作

機能維持を図る活動（ラジオ体操、ボール運動、ペダル漕ぎ等）

・研修、勉強会

中途入職者研修

勉強会「権利擁護」

2、身体拘束等の適正化の取り組み

第5回 虐待防止・身体拘束廃止委員会

現状報告

・身体拘束を行っている事案はなし。

・センサーチャイム4名の方に使用中。

1名の方、チャイムの音が察知できず転倒されているのを発見する。センサーの位置を検討したが、始めの場所が妥当と判断される。日により、動きが活発なことがあるため、職員間で情報共有と連携を密にし、鳴ったら間をおかずに訪室することを周知した。

3回目虐待自己チェックから

▶ “努力が足りないと思う” にチェックが集まった項目

【受け持ち入居者の家族に対して近況を積極的に伝えている】

【（おやつ時間）入居者様に交わり共に過ごすよう配慮している】

の2点が多く上がった。この結果を受け、

▶結果からの今後の取り組み

①、コロナ禍の中で、家族様の面会が出来ないため、職員が直接家族様とお話できる機会が少ない状況がある。居室担当者としてカンファだけでなく、電話連絡等の連携の機会を増やしていきたい。

②、ゆっくりと一緒にお茶を飲む事は難しい時があるが、会話など関わらせて頂くときは目線の高さを合わせ、視野に入って対応することを統一ケアに努めていく。

3、その他

【寄せられたご意見等】

12名の方に、第5回運営推進会議活動報告書を送らせていただき、9名の方からお返事をいただいた。

〈ご意見〉

・コロナ感染対策で居室での食事になった時の様子を次回の運営推進会議の時で構いませんので、申し越し詳しく教えていただきたいです。普段の食事介助と比べて時間がかかったのでしょうか。

・虐待自己チェックの努力が足りないと思う項目については、コロナの感染防止の影響も大きかったのではないのでしょうか。そのような状況でもできることから改善に降り組んで

いただきたいと思います。

- もうしばらく緊張の日々が続きますが、無理はしすぎないようにご自愛ください。
- 普段と違う生活環境と場合、少し落ち着かない様子になる場合もある事と書かれてありましたが、この事は良くわかります。病院へ行ってもなかなか落ち着きません。何度も待合室へ行き、人を見に行きたがりまして。やはり住み慣れた所がいいのでしょうか。
- いつもお世話をおかけします。今後ともよろしく願いいたします。 以上